日中友好新聞

府連通信

2023年２月号
日本中国友好協会
大阪府連合会
〒530-0013
大阪市北区
芝田2-3-19
東洋ビル本館207
TEL06-6372-8131
FAX06-6372-8132
郵便振替口座
00970-5-8978
E-mail:info
@jcfaosaka.org
ホームページ
http://
jcfaosaka.org/

「中国百科」改訂版の編集進む
新たに25項目の内容を追加

本部では現在、公式テキスト『中国百科』の改訂版の編集作業を進めています。現行版テキストの出版社の在庫が無くなり、年初には新規受験者が購入できなくなるという事態が予測されたため、昨年夏から準備を進めていたものです。

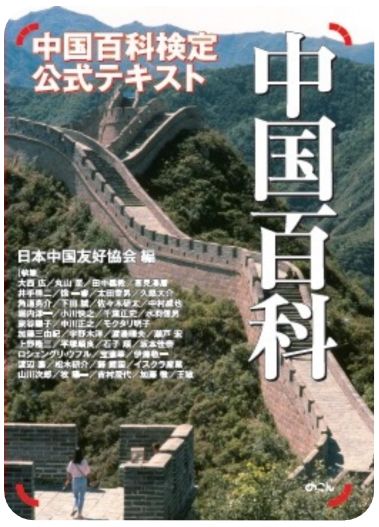
これまで、２０１３年に出版した『中国百科』の「更新」は検定HP上の『増補分』によって行われてきましたが、基本的にはその内容も本の中にしっかり含めるという方針で編集を行っています。

『増補分』に組み込まれていた項目を、ページ数が増えすぎないように内容の吟味を行ない、圧縮・更新・削除などをしています。

また、一ページもののコラム「動画サイト」「ネット・ショッピング」「AI開発」を新たに追加します。また、「地理」の各省・各民族の人口やＧＤＰ、「経済」の各種データの更新や「法」改正も反映させています。

『中国百科』は中国に関する各種の情報を詰め込んだ「辞書」としての性格もあり、この点を重視しています。

なお、次回の第13回試験の受験申込受付は４月１日に開始しますので、それに間に合わせるように作業を進めています。ちなみに、『増補分問題集』も４月１日を目途に改訂し、これまで通りHP上で公開予定です。



第12回試験１３７名合格

本部では1月7日に第12回試験の最終的な合否判定会議を行い、１３７名の合格者を確定しました。全体としての合格率は前回と全く同じ80％となり、受験者の８割にのぼる方々に合格認定証をお渡しできることになりました。

第13回百科検定試験　7月15日（土）
第14回百科検定試験　12月2日（土）

おおさか「春節祭」３年ぶり開催

1月20日から22日、天王寺公園エントランスエリア「てんしば」で大阪春節祭が開催され、大阪府連から14名が参加、渡辺会長がオープニングテープカットを招待客とともに行いました。連日ステージプログラムがきれめなく表演されていました。

大阪春節祭は今年で7回目、中国の旧正月の雰囲気を味わい、友好交流を促進するため開催されています。

アジアで活躍するアーティストによる舞台と、中国を中心としたアジア各国の郷土料理のお店が出展されていました。舞台の演奏を聴きながら、水餃子や肉まん、ラム肉の串焼きやちまきなどを味わっていました。帰国者センターの皆さんのひろば舞や、太極拳の表演もあり大いに楽しみました。

長い歴史がある春節

春節は中国において、先祖を祭る清明節、日本でもよく知られる端午の節句や中秋節と並ぶ大切なおまつりです。その歴史は長く、一説によると今から４０００年以上前（紀元前２０００年ごろ）にはすでに春節を祝う習慣があったとされています。

伝統的な意味での春節は、中国暦の12月8日あるいは12月23日から1月15日（元宵節）までの期間のことを指し、その中で1月1日は、はじまり意味する「元」と日の出を表す「旦」を組み合わせ、「元旦」と名付けられました。中国が新暦（グレゴリオ暦）を用いるようになったあと元旦は新暦の1月1日になり、中国暦の1月1日は春節と定められました。

大阪西支部　中国百科検定　42名合格

昨年12月3日第12回中国百科検定が実施され、大阪西支部では毎回のように試験成功のため、受験者以外も多数協力をして当日は参加しています。

第12回受験結果が1月中旬各家庭に発送され、大阪西支部受験者5名全員合格しました、7月に実施された第11回時も5名受験し全員が合格しています。初級から特級までバラエティに富んでいます。

これまでの延べ合格者は42名に達し「理解は絆を強くする」と本部は述べていますが、仲間の絆も一層深まっています。

ある受験生は中国向けのテレビ、映画、本等読み見ることがとても役立っていると言います。知ることの喜びがおもしろいと、日本文化は中国から来ていることがよく理解出来ます。友好の大切さや経済・観光にも頼っていて、軍事優先でなく平和的な話しあいが必要なことが、百科検定からも理解出来ると語っています。

平松　悦雄

おおさか人権フェスタ２０２３
帰国者センターが人権賞を受賞

大阪中国帰国者センターが、２０２２年度大阪弁護士会の第22回人権賞を受賞されることになり、2月4日、大阪弁護士会館で授賞式がありました。

受賞理由は

『一般社団法人大阪中国帰国者センターは、中国残留邦人一世と二世の当事者が相談員や通訳をはじめ幅広く、きめ細かな支援活動に携わり、まさに当事者主体の自助的人権活動を長年続けて来られた団体です。

高齢化により介護の必要性が増した一世には「尊厳をもって最後を迎えて欲しい」と心を込めた支援を提供し、増加した三世の若年層のニーズにも対応を心掛けておられます。

国策によって入植したあげく、敗走する日本軍に遺棄された多数の「残留」を余儀なくされた多数の日本人の味わった苦難という歴史的事実と「帰国後」も続いた苦境に対する社会的関心が薄れていることから、日中国交正常化50周年に合わせて授賞することによる社会的なインパクトと啓発効果を期待して推薦しました。』

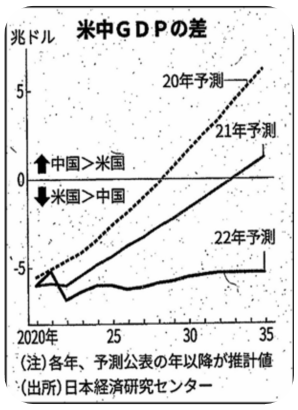
「米中逆転」やいかに、相反する２つの予測登場

府連副会長　山本　恒人

新年早々、中国が２０２２年の経済統計速報値を発表した（『人民網日本語版』）。国内総生産（ＧＤＰ）は１２１兆２０７億元、前年比で3.0％の経済成長だが、これは米日独よりはやや高めとはいえ、文革最後の年１９７６年（マイナス1.6％）に次ぐ低成長である。また総人口は14億１１７５万人、前年から85万人の人口減少となった。中国の人口減少は毛沢東の大躍進政策の失敗で多数の餓死者を出した１９６１年以来61年ぶり。高齢化に向かう中国の将来図として頭にあったにせよ、世界的なニュースとなった。

中国経済の「下振れ」強調する予測登場

昨年末、こうした状況を見透かすかのような経済予測が「日本経済研究センター」から発表された。「米中ＧＤＰ逆転せず」（『日本経済新聞』２０２２年12月15日、見出し）。近年では「２０３５年には経済規模（ＧＤＰ総額）で米中逆転が生じ、２０５０年には経済力（一人当たりＧＤＰ）でも中国は先進国上位国に並ぶ」という説が常識といってもよかったから、結構な衝撃。



図が示すように、同センターが２０２０年に発表した予測では２０２８年に、２０２１年の予測では少しずれ込んで２０３３年に、中国のＧＤＰがアメリカを追い抜くとされていたのに、昨年２０２２年予測では一転、中国の成長率の鈍化によって、２０３５年になってもＧＤＰはアメリカの87％に止まるとされた。中国経済の下振れ要因としては①ゼロ・コロナ政策と景気後退②アメリカの先端技術対中輸出規制強化③「台湾有事」などリスク・シナリオによる海外企業の中国離れ、以上の３点をあげている。さらに同センターは、人口の減少要因も織り込んで「２０３６年以降も米中逆転は起きない」と指摘している。

中国の経済成長鈍化を上回るアメリカの停滞

興味深いことに、アメリの巨大証券ゴールドマン・サックス社（GS社）がやはり昨年末、日本経済研究センターとは真逆の予測を発表した。GS社「世界経済長期予測」（２０２２年12月６日）は、２０２４～29年のＧＤＰ潜在成長率推計中国４％に対し、アメリカが1.9％にとどまることから、中国のＧＤＰは２０３５年頃アメリカを抜き、世界一の経済大国になる可能性がある、としている。さらに２０５０年には世界五大経済大国は中国、米国、インド、インドネシア、ドイツの順（日本は第６位）となり、２０７５年頃にはインドが米国を抜いて世界第二の経済大国（日本は第12位に転落）となる可能性があると指摘する。

調査研究の結果が真逆―それも大切なできごと

アメリカが「対中関与政策」から「デカップリング」へと政策転換する中で、米中関係は緊張度を増している。その行方を展望することは、世界１位と２位の経済体（しかも２位が１位の80％に達している）としての盛衰を見極めることと密接に関係している。上記２つの予測がなぜ相反する予測になったのか、どちらの予測がより合理的なのかは、仮説（成長率、人口要因、生産性、両国政治関係の影響等）と検証の中身に踏み込まなければ、判断し難い。今回は各種報道の紹介に終わらざるをえないが、両推計そのものを検討する機会ももちたい。

中河内支部　３年ぶりの新年会で交流

旧「東大阪支部」は、役員会も開かれず、会費の滞納整理を２年がかりで行い、２０１２年４月に再建しました。２０２１年８月の支部総会で、東大阪だけでなく八尾、柏原にも日中友好運動を広げて行こうと歴史のある支部名を「中河内支部」に変更し、再建から10年が経過しました。現在、「中国語講座」、「河内の歴史を学ぶ会」を年金者組合と共催で取り組んできました。

昨年の日中国交正常化50周年文化のつどい（12月25日）に、支部から楽器演奏（サックス、尺八、二胡、オカリナ、ケーナ）で出演、年金者組合の役員の方と共演し、地域の民主団体からもミニ文化行事に出演依頼があり、紹介する時の「グループ名」と言われて、相談の上４人なので「かわち軽テット（四重奏）」にしました。年金者組合の役員の方は、２月から準会員になっていただき、新年早々元気ができました。

今年は、１月20日に３年ぶりに支部新年会を行いました。会員相互の交流をと声をかけ、参加者は10名、初めての参加が２名で、自己紹介しながら、料理もおいしく、お酒もすすみ楽しい時間を過ごしました。

今年は大変忙しい年になりますが、様々なつながりを生かして運動を広げて行きましょう。

中河内支部長　浜　正幸

帰国者二世支援署名

大阪府連事務局に１月末で、合計９６５筆が届けられました。布川さん３２４筆、城北支部１８５筆、中河内支部１９５筆、西支部１５９筆など、引き続き署名に取り組みます。

府連通信の発行は

毎月15日付け「日中友好新聞」に折り込みの予定で編集・印刷の作業を行っています。

①支部での折り込みの日程をご確認ください。

②支部活動等、原稿は月末までにお送りください。

③「日中友好新聞」は毎月２回発行、休刊はありません。

「府連通信」編集委員会

『研究中国』誌への投稿をめぐって

先日、山本恒人さんから「この間、堺支部で取り組んでいる毒ガス被害の問題について、まとめてみませんか」というオファーがありました。いつかはまとめたいなぁ…とは思ってはいましたが、実際に取り組むとなるとエライこっちゃです。生まれてこの方、「論文」なるものを書いたことなどありません（追試のレポートならたくさん書きましたが）。

堺支部で取り組んできた公開市民講座と寺ケ池のフィールドワークを下に、支部でプロジェクトチームを作ってすすめたい、と考えています。要旨はこんな感じです。

毒ガス兵器が日中戦争、アジア太平洋戦争で使われた。その遺棄兵器が、現代によみがえり、中国と日本の人びとの健康を蝕んでいる。この事実はあまり人びとに知られていません。

堺支部は、毒ガス被害者を支援されている中川医師の講演につよく動かされ、以来、支部のテーマとして学習し知らせる活動をすすめています。

堺支部　藤田　大輔

城北支部　２０２３春節祭を楽しむ

１月20日年春節祭が天王寺公園てんしばに於いて会期３日間で開催されました。城北支部は初日の20日に中国の正月・春節祭を共に祝おうと６名が参加しました。

会場入り口の大きな春節祭ドームを抜けると模擬店・屋台のテントが並び、多くの参加者がつめかけ、中国語が飛び交い活気に溢れていました。正面舞台では地域別に華僑や引揚者の方々がカラフルな民族衣装を纏い歌や踊りを披露、出演者と参加者が一体となり春節祭を楽しんでいました。

城北支部の参加者は屋台で牛肉の串焼き、唐揚げ、肉を詰めたパンなどを買い込み、ビールで乾杯し春節を祝いました。親睦を深めているとき華僑のグループから声を掛けられ、西脇さんが中国語で対応すると華僑の人たちが西脇さんの中国語が流暢で綺麗な発音に驚いていました。

スケジュール表を確認すると２日目午後から變（変）面、獅子舞など是非見たい催しが目白押しで残念な思いで会場を後にしました。佐藤　倫理